

当科において 2016 年 6 月 8 日～2018 年 3 月 31 日まで行われておりました、下記の臨床試験では試験参加者の腫瘍検体から作成されたスライド標本が測定機関において 3 例分紛失されたとの報告がありました。詳しくお知りになりたい方は研究責任者までご連絡ください。

研究課題名	術前レトロゾール治療の効果予測因子としての再発スコア™結果の検討
研究機関の名称	自治医科大学附属病院 乳腺科
研究責任者の氏名	藤田 崇史
研究対象	N-SAS BC06 試験“A phase III study of adjuvant endocrine therapy with or without chemotherapy for postmenopausal breast cancer patients who responded to neoadjuvant letrozole (LET): the new primary endocrine-therapy origination study (レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験：NEOS 試験)に参加された患者さんを対象とします。
研究方法	腫瘍検体および臨床データ（乳癌診断年、試験参加時年齢、試験参加時 UICC-TNM 分類、MRI または CT により 2 方向測定された、試験参加時の臨床腫瘍径、MRI または CT による試験参加時の同一乳房区域における多巣性の評価、開始時点における、治療医師による乳房温存術対象評価、術前レトロゾール治療を行った後における治療医師による乳房温存術対象評価、術前レトロゾール治療後における UICC-TNM 分類に基づく臨床ステージ、MRI または CT により 2 方向測定された、術前レトロゾール治療後における臨床腫瘍径、MRI または CT による術前レトロゾール治療後における同一乳房区域における多巣性の評価、術前レトロゾール治療後における MRI または CT による（最大径を用いた）一方向測定による標的腫瘍臨床反応性、術前レトロゾール治療後における臨床反応カテゴリー、術式）を使用し、Oncotype DX 乳癌検査の再発スコア™結果が低い症例と高い症例における術前内分泌（レトロゾール）治療の臨床反応性を比較検討します。
研究期間	2016 年 6 月 8 日から 2018 年 3 月 31 日
研究に利用する情報	患者さんの腫瘍検体および上記の臨床データを研究に使用します。患者さんが解析対象となることを拒否された場合は、対象から外させていただきますので、下記研究責任者までご連絡ください。ただし、連絡を頂いた時点で研究成果が、学会・論文などで発表されている場合には対象から外すことはできません。ご了承ください。なお、研究に参加されなくても不利益を受けるようなことは一切ありません。
個人情報の取り扱い	臨床データは、研究責任者が連結可能匿名化したうえで、研究に使用します。研究成果は個人を特定できないようにして学会発表や論文などで報告します。
お問い合わせ先	自治医科大学附属病院 乳腺科 准教授 藤田崇史 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1 電話：0285-58-7371